

志木市 三枝さん

野菜栽培に炭を活用

給食に提供、生徒から好評

【埼玉】志木市にある三枝農園の三枝晃男さん（77）は、炭を使った栽培方法でカブや枝豆を生産している。三枝さんは30年ほど前、伊勢神宮の畑で炭を使った栽培方法に出会った。炭の効果に衝撃を受けて以来、炭を使った栽培を続けている。同園では、土壌消毒や除草剤を使用せず、播種前に有機堆肥と炭を土にすき込んでいる。枝豆や



自著を手に三枝さん

小松菜では農業不使用だ。「炭の細かい穴が微生物の住み家になって、養分豊かなすばらしい土になる」と三枝さんは熱心に話す。枝豆はふっくらした実と濃厚な味が好評で、同市のふるさと納税返礼品で1位に輝いたこともある。また、「カブの達人」と称される三枝さんのカブは、真っ白でみずみずしく甘い。同園の野菜は、市の品

評会で何度も賞を受けてきた。市内のスーパーでは特設売り場が設けられ、「おいしさの秘訣を店頭で説明してほしい」と依頼されるほど、同園の野菜は好評だ。三枝さんは「安全な物を食べてほしい」という思いから、オガニツク給食を広める活動に力を注いでいる。2023年度からは同市内の中学校の給食に野菜を提供し、給食の特別学習にも招かれ、各クラスを回った。生徒たちは「地元のおいしい野菜が食べられてうれしい」と笑顔で感謝した。三枝さんは「皆に安全でおいしく食べられる野菜を届け、トップクラスの農家をめざしたい」と熱く語った。